

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	集団に対する指導援助	個人に対する指導援助	検証の観点
本 時 の 展 開	4. 問題練習をする。	20	○グループ学習の形態を取り互いに教えあうように働きかける。 ○練習用問題のほか応用問題も提示し、余裕のある者には取り組ませる。	○問題演習をさせる。 例題を参考にどれくらい理解できたか、問題演習を通して確認する。 「わからない人は、グループ内で、教えてもらいなさい。そして、全員ができるように努力しなさい。出た人は出さない人にもわかるように説明できれば素晴らしいことだよ。」 ○グループ内の教え合いを援助する。 「隣の人と解答が違っているけど、どうしてかな。手順にしたがって確認してごらん。」 「D男君。A子さんにも、教えてあげてよ。」	○スモールステップの一つ一つの手順で理解されているか、個別指導する。 「A子さん。ここまでではきちんとできているね。いいよ。この次をもう一度考えてごらん。」 「君はどの段階までは分かっているんだい。」 ○誤答者に対し、励ましを与えるとともに、その理由を考えさせる。 「ここまでではきちんと出来てるね。いいじゃないか。ここから違っているけど、どういうふうにかえたんだい。」 ○間違いの多かった生徒の解答は特に丁寧にみて指導する。 「ここまで出来ていれば、部分点だけでも半分以上きていることになるよ。」 ○上位者には、応用問題にも取り組ませる。 「Bさんは、余裕があれば、応用問題もやってみたら」	[成績上位者] 応用問題に取り組んだり、分からない友人に教えたり積極的に活動しているか？ [成績下位者] わからない点を積極的にわかろうと努力しているか？

図IV-18 指導過程（一部抜粋）

T : (成績下位のA子には) A子さん, いいねえ。最初の第一段階まではできてよ。

A子: (うれしそうに) いいんですか。でも、次はよくわかりません。

T : (にっこり微笑んで) そうか。でも、例題の手順を参考に、やれるところまでやってみようよ。

A子: う〜ん。この式で、もとの式を、割算すればいいんですか？

T : うん。そうそう、やってごらん。

A子: (首をかきげながら) こうでいいですか？

T : うん。考え方はそれでいいんだよ。ただ、計算にミスがあるかもしれないから、D男君の解答と比べてごらん。D男君。A子さんを助けてあげてね。(D男は成績上位)

T : (成績中位のE男に) E男君も解答までできているみたいだね。ずいぶん早くできたね。すごいね。でもD男君の解答と違うみたいだよ。二人で、手順にそって検討してごらん。

E男: え、そうですか。じゃ俺が間違えたかな。(と言って、あわてて自分の答を消そうとするE男に対して)

T : おいおい。いつもD男君が正しいとは限らないぞ。手順にそって、一つ一つ確認してごらん。

このようにして、小集団内での相互学習の雰囲気づくりをした。単に答の結果だけを比較せず「なぜこうした答がでてきたのか」その考えを述

べ合って検討させるようにした。

特に、演習に対する前向きな姿勢を認めることで自尊心を高めるよう意識的にかかわった。

また成績上位の生徒のための学習課題を示し、能力にあった問題に取り組ませるようにした。自分の課題が終わると何をしていいかわからないでいる一部の生徒には、十分な働きかけを与え、更に学力を伸ばせるよう配慮した。

ウ 取り組みを励ます

苦勞して正解までたどり着いた生徒に対しては特に賞賛し、板書してもらうことで、クラス全体から承認が得られるようにした。また、単に正解を写すだけにならないよう、途中まででもできた点を評価するようにした。

誤答に対しては、批判的にならないように注意し、途中経過や考え方を前向きに評価し、誤りの原因を一緒に考えていくようにした。

④ 授業実践についての考察

ア クラス全体の人間関係の改善を図る

教師と生徒の会話を重視し、一方的に説明することのないよう、生徒と一緒に考える授業を心掛けたことと、小集団学習を行ったことにより、生徒同士のコミュニケーションも深まり、楽しく授業展開が図れるようになった。

イ 学習意欲を高める

わかりやすい授業の実践を心掛け、生徒の前向きな姿勢を認め励ます働きかけを多くした結果、学習意欲が向上した。問題解決の手順をスモール